

# 第1回 金沢港将来ビジョン検討委員会



令和5年4月28日 石川県

# 目 次

## 第1章 将来ビジョン策定の目的

- ・ 将来ビジョン策定の目的 …… P4

## 第2章 金沢港の現状

- ・ 利用状況について …… P7

## 第3章 金沢港の課題

- ・ 多面的な分析評価について …… P27
- ・ 課題 …… P28

## 第4章 今後の予定

- ・ 将来ビジョン策定の進め方 …… P36

# 第1章 将来ビジョン策定の目的

## 第2章 金沢港の現状

## 第3章 金沢港の課題

## 第4章 今後の予定

# 金沢港将来ビジョン策定の目的

1. 金沢港は、平成14年策定の港湾計画に基づき、ハード整備やソフト施策に取り組むことにより、貨物・クルーズ・賑わいの拠点として大きな変貌を遂げてきた。
2. 一方、将来を見据えると、コンテナ船の大型化や脱炭素化の促進など、金沢港を取り巻く環境の変化が見込まれている。
3. これらの変化に対応するため、長期的視点に立った港の目指すべき姿を描く「金沢港将来ビジョン」を策定するとともに、引き続き、港湾計画を改訂し、具体の計画を定め、将来ビジョンの実現に取り組んでいく。

	将来ビジョン	港湾計画
内 容	長期的な視点における目指すべき将来像 ・基本理念(目標)、港湾空間のあり方(ゾーニング)	将来ビジョン実現に向けた具体の計画 ・港湾施設の規模、配置、港湾の土地利用計画
目標年次	20年～30年後	10年～15年後

**ビジョンを具体化**

第1章 将来ビジョン策定の目的

**第2章 金沢港の現状**

第3章 金沢港の課題

第4章 今後の予定

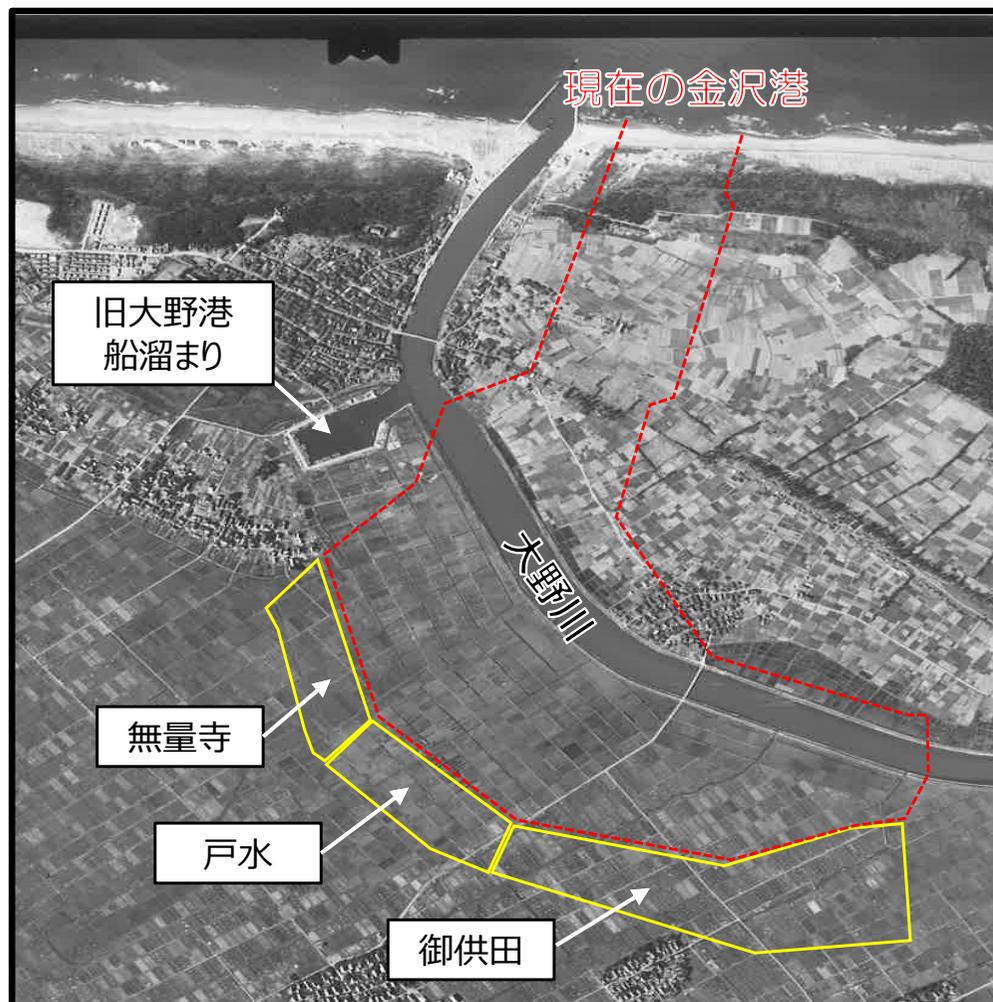
# 金沢港の現状 (金沢港の変遷)

- ・S38 三八豪雪  
→海上輸送の必要性が高まる
- ・S45 金沢港開港



- ・S63 コンテナ航路開設
- ・H19 コマツ金沢工場の立地など  
地域経済を支える港として発展
- ・近年は、クルーズ船の寄港が急増

昭和37年当時



現在 (令和5年)



# 土地利用状況



# 主な利用状況 (①大浜地区 (大浜ふ頭) : 物流関連ゾーン)

○大浜ふ頭は、建設機械・産業機械を主に取り扱う。また、大型クルーズ船の臨時寄港としても利用。

## ○施設概要

- 岸壁水深 - 13m  
(暫定-12m供用中)
- 岸壁延長 400m  
260m (平成20年完成)  
140m拡張 (平成28年完成)
- 取扱貨物 建設機械、産業機械
- その他 クルーズ船の臨時寄港地  
※無量寺の岸壁延長等が不足するとき

## 【位置図】



## 建設機械、産業機械の荷役



## MSCスプレンドィダ (137,936GT、335m)



# 主な利用状況 (②-1北地区 (石油ふ頭) : エネルギー関連ゾーン)

○石油ふ頭は、ガソリン・重油・LPGを主に取り扱う。背後地は、エネルギー関連企業が立地している。

## ○施設概要

- 岸壁水深 - 7m
- 岸壁延長 600m (昭和45年完成)
- 取扱貨物 ガソリン・重油・LPG
  - タンク：約60基
  - 総貯蔵量：約22万キロリットル
  - 石油関連企業が集積

## 【位置図】



石油ふ頭



石油を移入する輸送船



# 主な利用状況 (②-2北地区 (五郎島ふ頭) : 物流関連ゾーン)

○五郎島ふ頭は、砂利・砂の輸入、金属くずの輸出を主に扱う。また、巡視船(海保)の係留場所としても利用。

## ○施設概要

- 岸壁水深 -9m
- 岸壁延長 240m (昭和57年建設)
- 取扱貨物 金属くず、砂利・砂
- その他 巡視船(海保)の係留場所

## 【位置図】



## 金属くずの荷役



## 砂利・砂の荷役



# 主な利用状況 (③東地区④湖南地区：産業関連ゾーン)

○東地区、湖南地区は、工業団地や木材団地が形成され、様々な企業（製造業、卸売業、運輸業等）が立地している。

大野川下流付近



【位置図】



大野川中流付近



大野川上流付近



# 主な利用状況 (⑤-1南地区 (御供田ふ頭) : 物流関連ゾーン)

○御供田ふ頭は、コンテナ貨物の輸出入のほか、セメント、鋼材の移入を主に取り扱う。

## ○施設概要

- 岸壁水深 - 10m
- 岸壁延長 540m  
(昭和53年～平成11年完成)
- 取扱貨物  
コンテナ、セメント、鋼材

コンテナターミナル

## 【位置図】



## コンテナへの荷積み状況



## ガントリークレーン

トランスファー  
クレーン



コンテナ船

# 主な利用状況 (⑤-2南地区 (戸水ふ頭) : 物流拠点ゾーン)

○戸水ふ頭は、建設機械の輸出を主に取り扱う。(日韓定期RORO船が週2便運航)

## ○施設概要

- 岸壁水深 -10m
- 岸壁延長 370m  
昭和46~47年完成
- 取扱貨物  
建設機械・セメント
- その他 クルーズ船の臨時寄港地  
※2隻同時接岸する時

## 【位置図】



戸水ふ頭

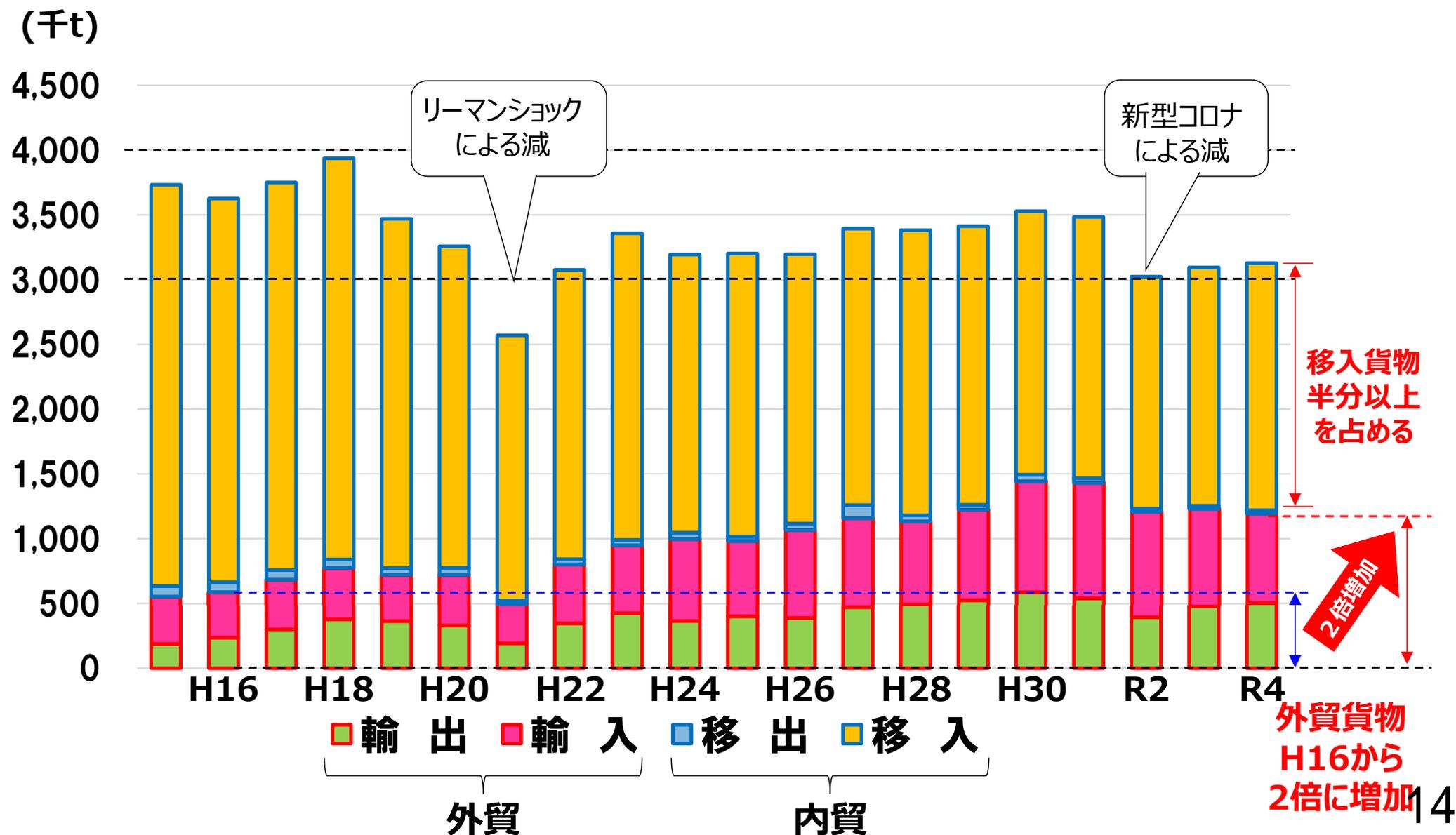


RORO船  
(日韓定期RORO航路:週2便)



# 取扱貨物量の推移

- 港湾取扱貨物量は、年間300～400万トンの間で推移している。
- 外貿(輸出入)貨物量は、平成16年から令和4年にかけ2倍以上に伸びている。
- 移入貨物量 (ガソリンなどの石油製品やセメントなど) が半分以上を占める。



# 取扱貨物種別割合

## ○主要貨物

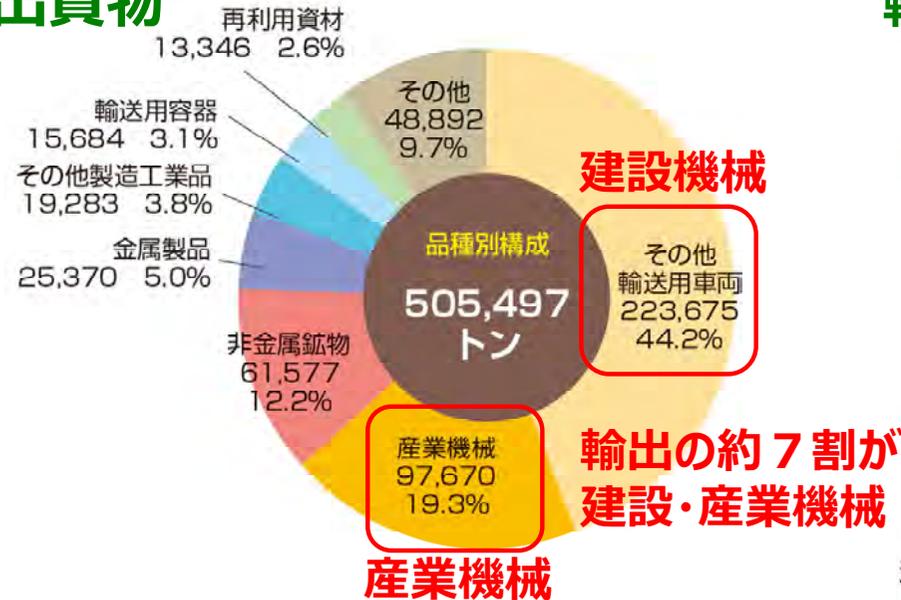
【輸出】建設機械、産業機械

【輸入】糸、紡績機器の部品

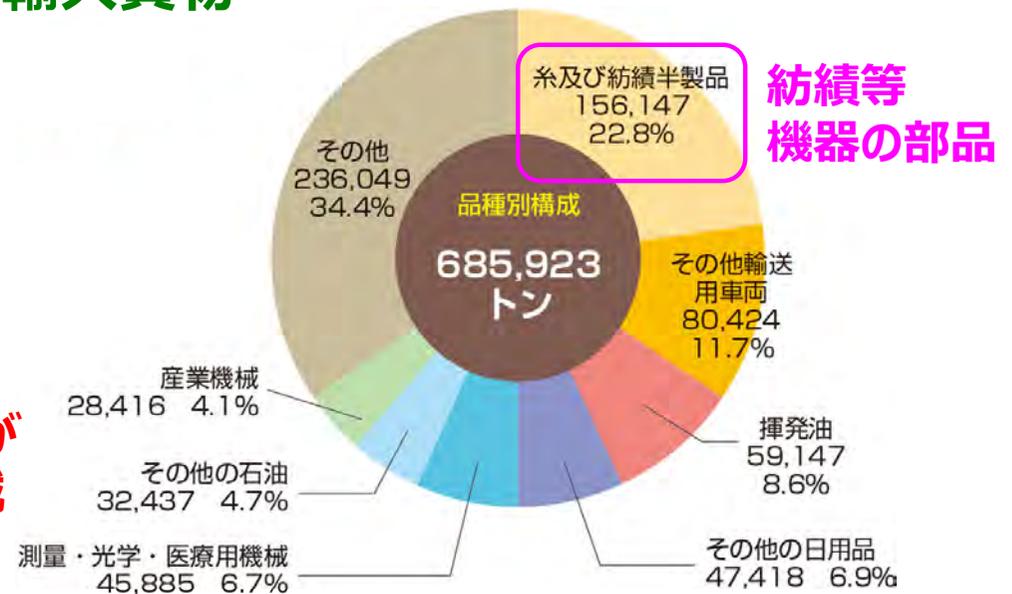
【移出】鋼材、水

【移入】ガソリンなどの石油製品、セメント

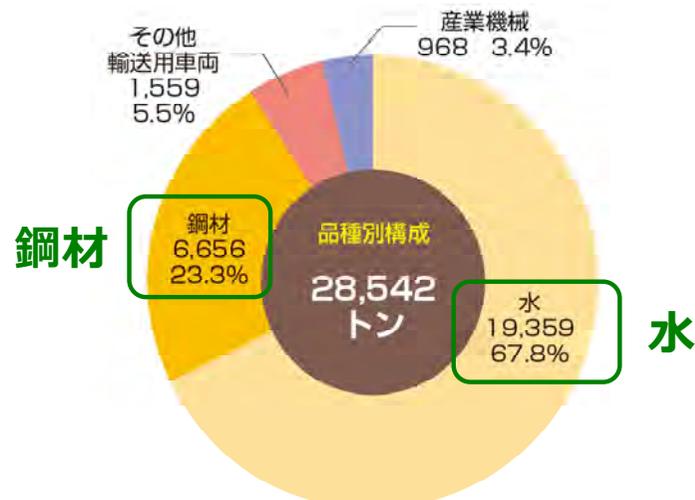
## 輸出貨物



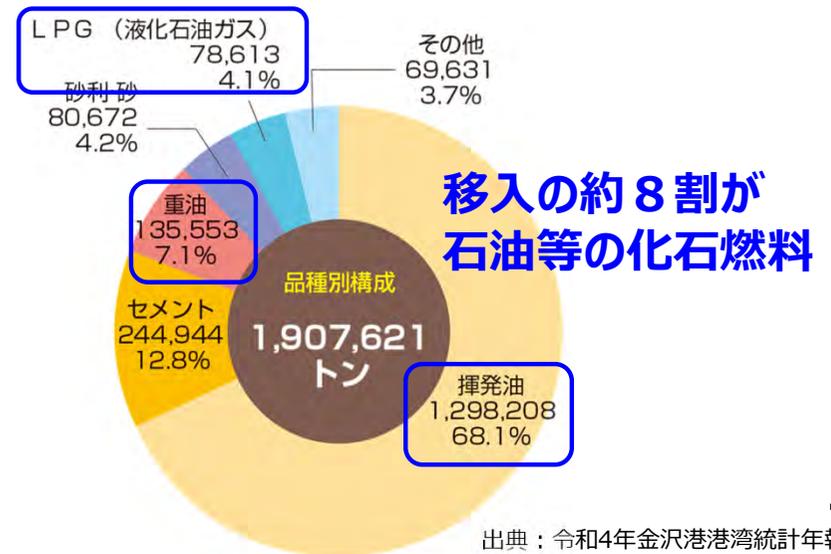
## 輸入貨物



## 移出貨物

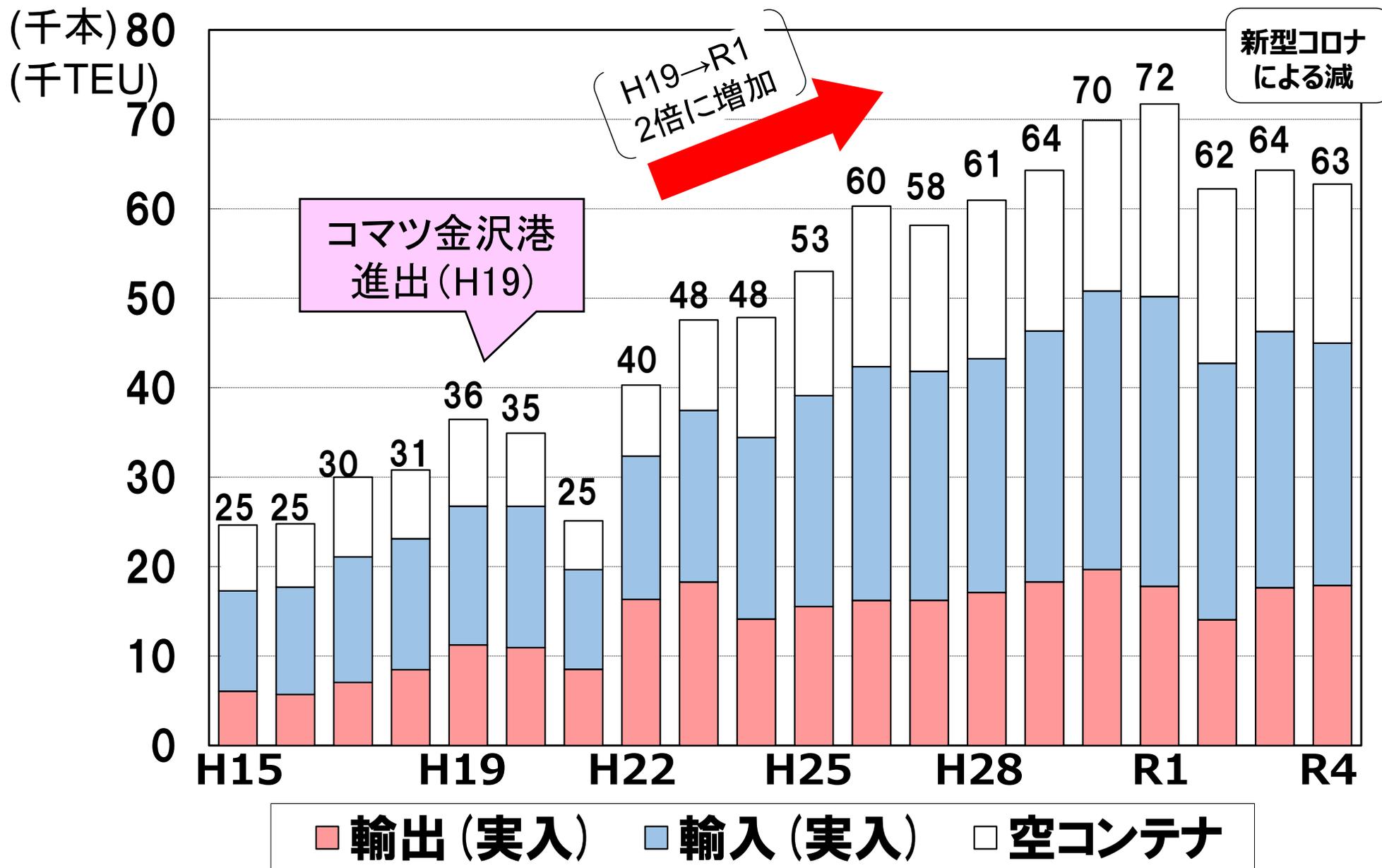


## 移入貨物



# コンテナ貨物取扱量の推移

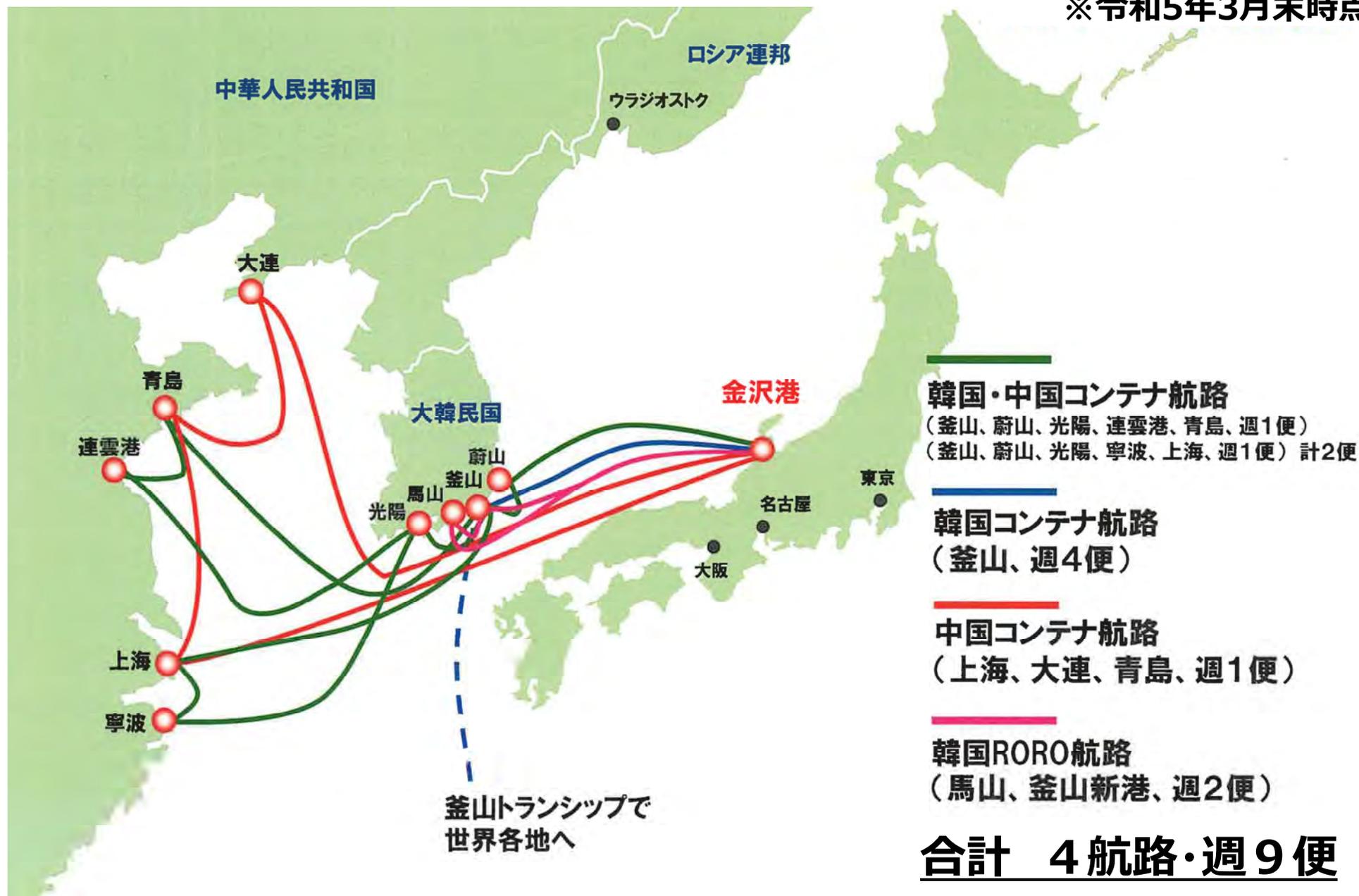
- コンテナ貨物取扱量は、コマツの進出以降、右肩上がりで伸びてきている。(約2倍 H19→R1)
- コンテナ取扱貨物重量は、全国の重要港湾の中で第2位 (令和3年時点)



# 国際定期航路の就航状況

- 現在、韓国や中国航路など **4 航路・週9便**の国際定期航路が運航している。
- 国際定期航路数では、**全国の重要港湾の中で第2位**（令和3年時点）

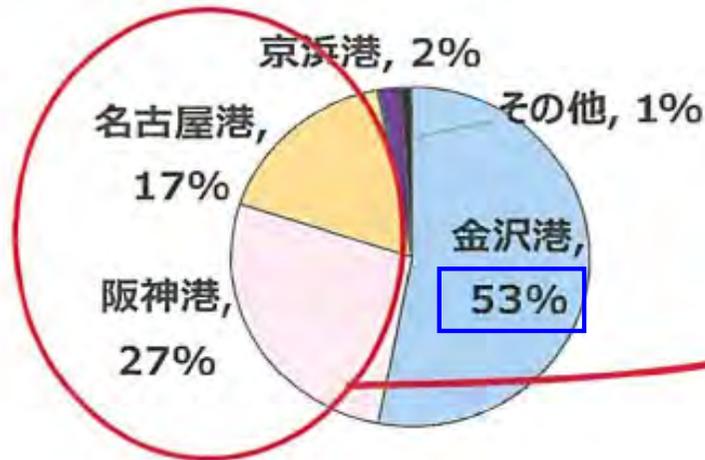
※令和5年3月末時点



# 県内企業の金沢港利用状況

○ 県内企業による金沢港の利用率は年々増加傾向にあるが、  
未だ約半分が太平洋側の港を利用（阪神港27%、名古屋港17%）

## H30:県内企業の金沢港利用率（輸出）



※全国輸出入コンテナ貨物  
流動調査結果

### 【金沢港利用率の変化】

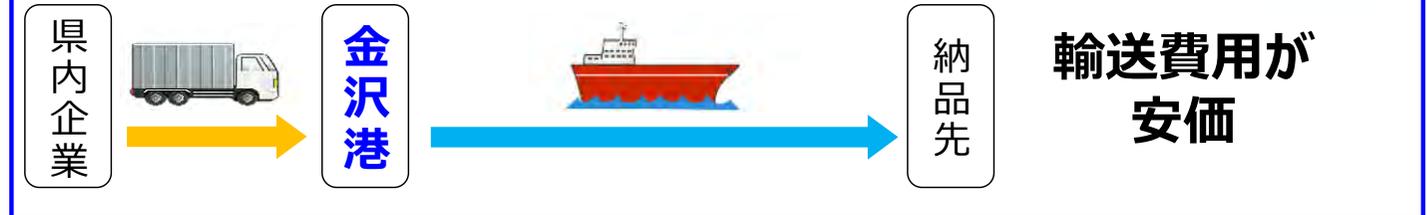
H20 : 35%

H25 : 45%

H30: 53%

→年々増加傾向

### 金沢港を利用



### 太平洋側の港を利用



# 主な利用状況 (⑤-3南地区 (無量寺ふ頭) : 交流拠点ゾーン)

- 無量寺ふ頭は、クルーズ船の寄港地であり、乗船客の利便性向上のため、クルーズターミナルが立地している。
- クルーズターミナル周辺は、港湾関連企業や官庁が立地している。

## ○施設概要

●岸壁水深 -10m(一部は-7.5m)

●岸壁延長 390m

昭和47~50年完成

※岸壁改良工事および機能強化

整備事業はR2.3月に完成

●利用用途 クルーズ船寄港地

## 【位置図】





# 主な利用状況 (⑥西地区：緑地レクリエーションゾーン・船だまり関連ゾーン)

- 大野お台場公園や大野からくり記念館などが立地し、釣りが楽しめる護岸が整備されている。
- 大野ふ頭は官庁船、作業船の船だまりとして利用されている。

## 大野ふ頭



## 【位置図】



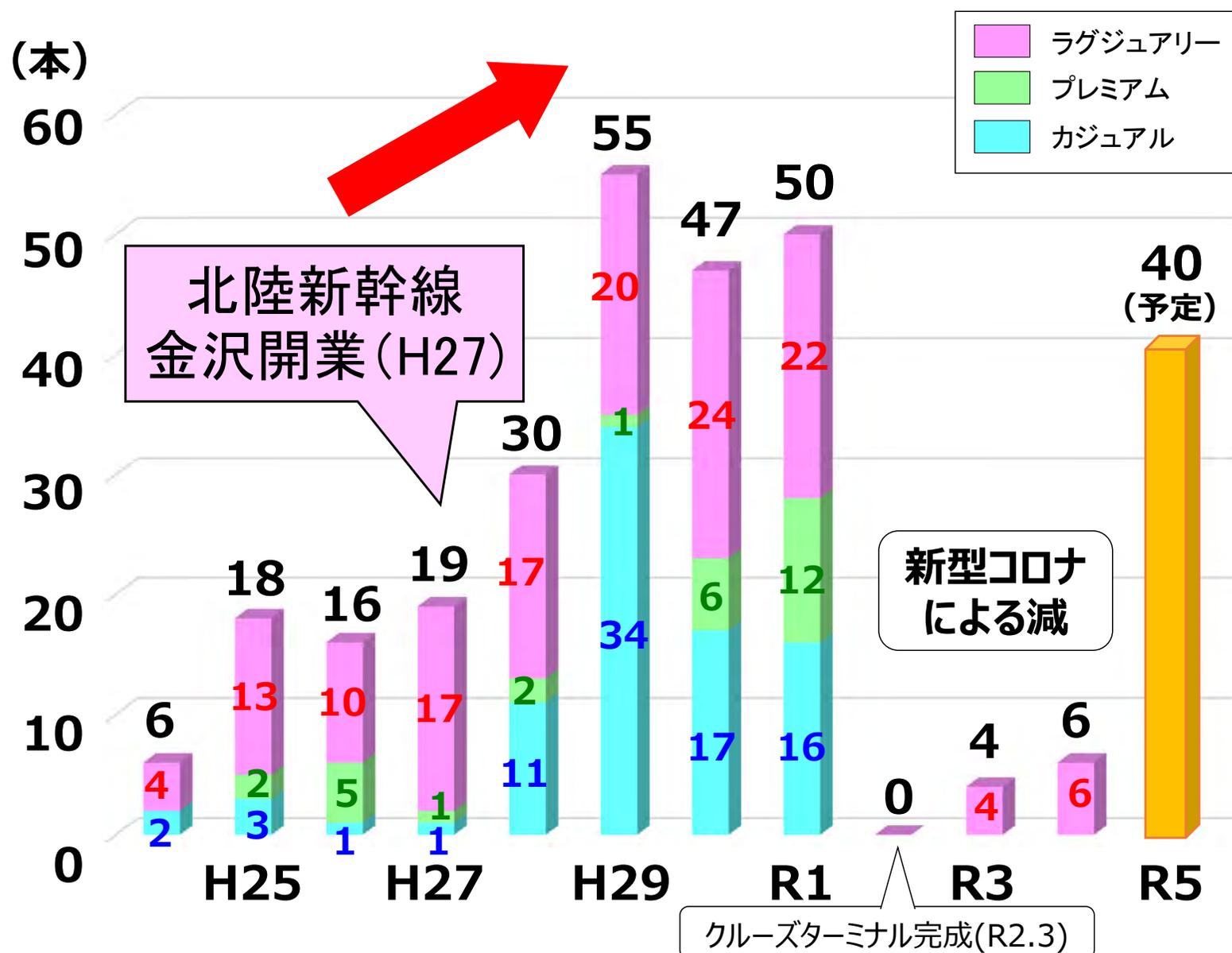
# 主な利用状況 (⑦金石地区(金石大野埋立用地)：浚渫土砂処理ゾーン)

- I 期は埋立工事が完成しており、暫定利用中。
- II 期は大浜航路の浚渫(-12m→-13m) により発生した土砂を受け入れ中。※R8完成予定



# クルーズ船の寄港数

- アジアの経済発展を背景にクルーズ需要が高まり、欧米船社のアジア進出が本格化。
- 北陸新幹線金沢開業による「レール&クルーズ」などにより、寄港数が急増（ピーク時：55本(H29)）
- 金沢港に寄港する船の特色として、富裕層が乗船するラグジュアリー船の比率が多い。



ラグジュアリー  
クイーン・エリザベス (英)



プレミアム  
ダイヤモンド・プリンセス (米)



カジュアル  
コスタ・ネオロマンチカ (伊)



# 賑わい創出の取り組み

○ターミナルを核としたにぎわい創出の取組（様々なイベント、ライトアップ）を実施し、  
コロナ渦でクルーズ船の寄港はなかった中、**来場者数はこれまでに170万人を超える。**（年間 約80万人利用）

## クルーズターミナルの整備



## みなとオアシス



### 港フェスタ金沢



昨年の「港フェスタ金沢」に併せて、みなとオアシスの構成施設と連携してPRを実施

## ライトアップや様々なイベントの開催



# 港周辺の景観

御供田ふ頭付近（荷役機械や貨物上屋）



水産ふ頭（いきいき魚市やかなざわ総合市場、製氷施設）



石油ふ頭（LPガス、石油製品タンク等）



道路から見たセメントサイロ



第1章 将来ビジョン策定の目的

第2章 金沢港の現状

**第3章 金沢港の課題**

第4章 今後の予定

# 金沢港の多面的な分析評価



金沢港の「強み」、「弱み」、「機会」、「脅威」を項目ごとに特性として整理

## 強み (Strengths)

1. 外貿定期コンテナ就航数が多い
2. ものづくり産業の集積
3. 陸海空の交通インフラの充実

1. 観光都市としての人気
2. 金沢都心部に近い

## 弱み (Weaknesses)

1. 岸壁水深が浅く、航路や泊地狭い
2. コンテナヤードが狭く、作業効率が悪い
3. 倉庫の不足
4. 港内に土砂がたまりやすい
5. 港湾施設の老朽化

1. 集客施設や物販施設の不足
2. 憩い空間の不足

## 機会 (Opportunities)

1. 生産拠点の見直しの動き(首都圏等→地方)
2. 世界的にコンテナ貨物が増加傾向
3. ドライバー不足等によるモーダルシフトの促進
4. カーボンニュートラルな社会
5. 広域幹線道路網の構築

1. 観光需要の高まり
2. インバウンドの回復による消費拡大
3. 旅行ニーズの多様化

## 脅威 (Threats)

1. 地域間競争の激化
2. コンテナ船等の大型化
3. 港湾労働力の不足
4. 次世代エネルギーへの転換
5. 冬期の波浪

# 課 題

## ① コンテナ船の大型化への対応

(現状)

- ・輸送コスト、CO<sub>2</sub>排出量の低減を図るため、コンテナ船等の大型化が顕著
- ・コンテナ取扱量が増加傾向

(課題)

- ・船舶の大型化に対応した港湾機能の拡充
- ・地域間競争に負けない港づくり

## ② カーボンニュートラルポートの形成促進

(現状)

- ・金沢港CNP形成計画を策定  
目標は2050年のカーボンニュートラル

(課題)

- ・港湾施設の脱炭素化
- ・次世代エネルギーの供給拠点への転換が必要 ※CNP…カーボンニュートラルポート

## ③ 土地利用計画の見直し

(現状)

- ・コンテナヤードが狭く作業効率が悪い
- ・金石大野埋立用地やクルーズターミナル周辺の土地利用が未定

(課題)

- ・新たなニーズを踏まえた土地の使い方について検討が必要

## ④ 港の賑わいと魅力の向上

(現状)

- ・国際クルーズ船が再開し、クルーズ船寄港増に向け、誘致活動を加速
- ・クルーズターミナルでの様々なイベント、ライトアップにより県民の利用が増加

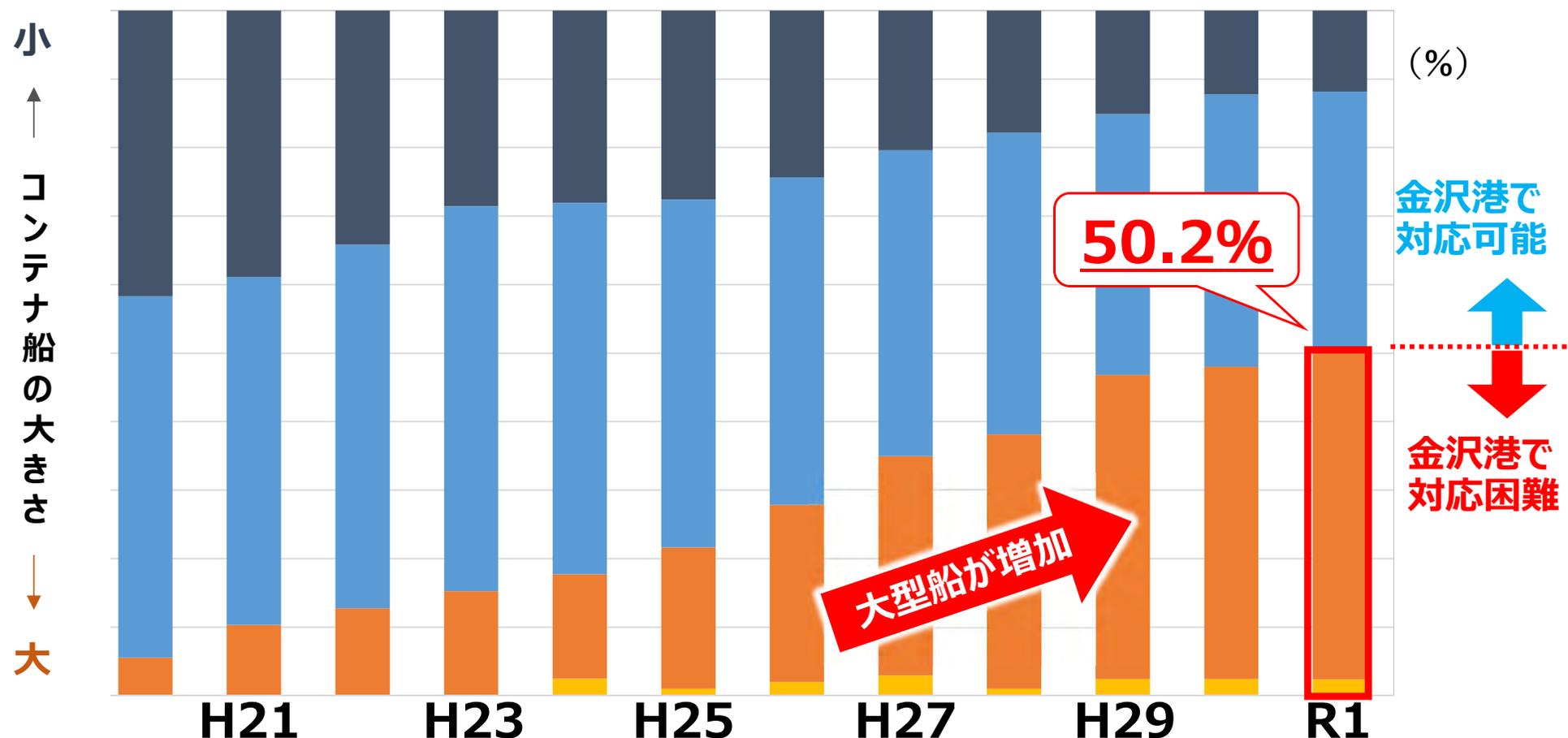
(課題)

- ・更なる賑わい空間の創出
- ・周辺施設との連携が必要

# 課題①コンテナ船の大型化への対応

- 韓国航路や中国航路においてもコンテナ船の大型化が進展している。  
(船社からのヒアリング調査により、近い将来、コンテナ船の大型化の意向を示している。)
- 船舶の大型化に対応した港湾機能の拡充が必要

日本に寄港している韓国・中国航路のコンテナ船の動向



【コンテナ積載能力】

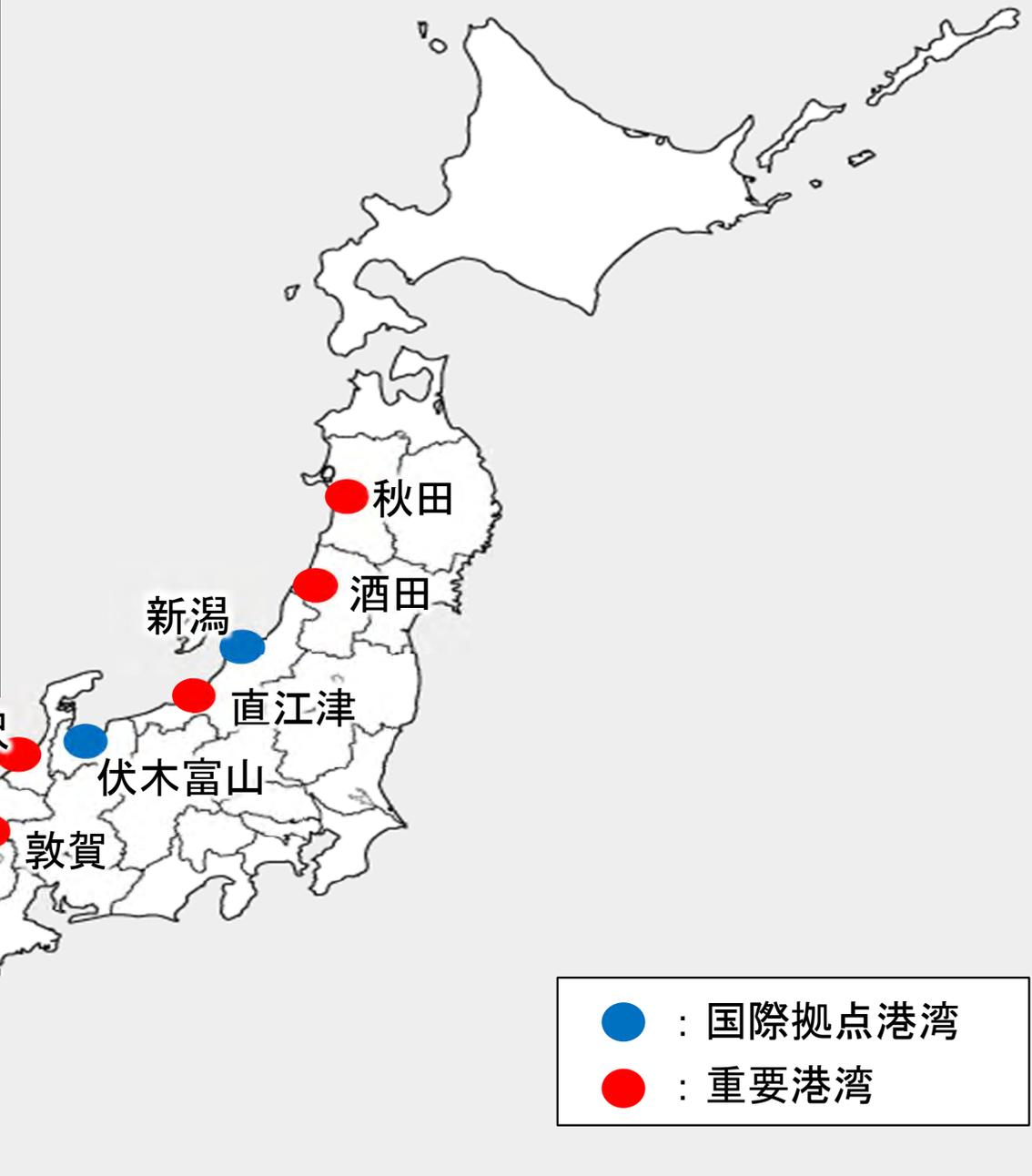
■ ~500 本 (TEU)/隻      ■ 500~1,000 本 (TEU)/隻

■ 1,000~2,000本 (TEU)/隻      ■ 2,000~ 本 (TEU)/隻

# 課題① コンテナ船の大型化への対応

○ 金沢港は他港に比べてコンテナ岸壁の水深が浅い。 ※金沢港10m、他港12～14m  
 (金沢港がコンテナ航路から外される可能性があるため、地域間競争に負けない港づくりが必要)

港名	岸壁水深 (m)	※計画 水深	R3 外貿コンテ 取扱量(千本)	金沢港 コンテ航路の 寄港地
秋田	13	(13)	49	○
酒田	14	(14)	24	
新潟	12	(14)	172	○
直江津	10	(10)	28	
伏木富山	12	(14)	69	○
金沢	10	(10)	64	○
敦賀	14	(14)	29	○
舞鶴	14	(14)	15	○
境	14	(14)	22	○
浜田	12	(14)	4	○
下関	12	(12)	48	



● : 国際拠点港湾  
 ● : 重要港湾

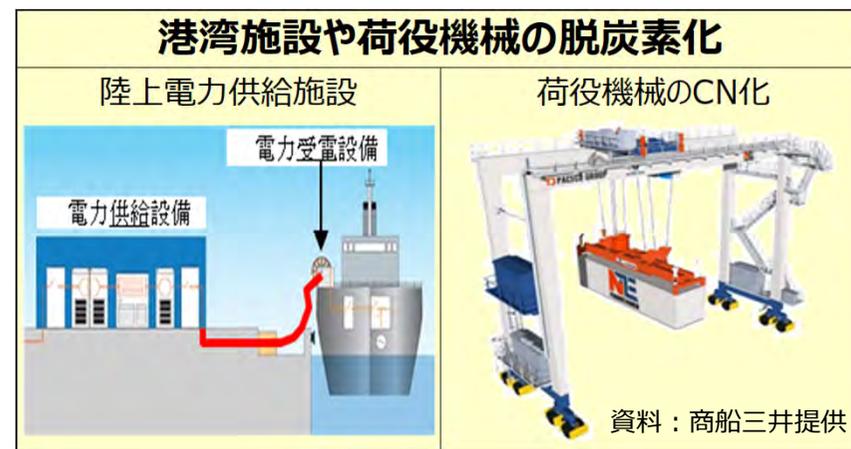
# 課題②カーボンニュートラルポート（CNP）の形成促進

○2050年カーボンニュートラルゼロの実現に向け、次世代エネルギーの供給拠点への転換や港湾施設の脱炭素化によるCNPの形成促進

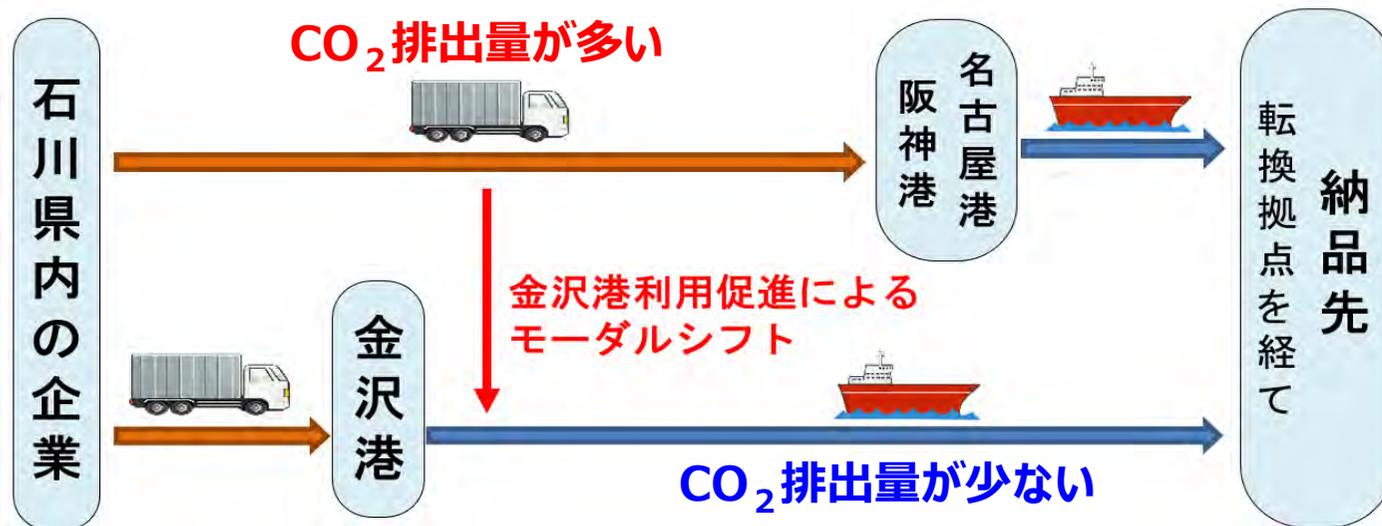
(1) 次世代エネルギーの供給拠点への転換  
(水素、燃料アンモニア等)



(2) 陸上電力供給施設の整備や荷役機械の脱炭素化



(3) 金沢港へのモーダルシフトにより、物流における脱炭素化に貢献



【モーダルシフトの必要性】

・陸上輸送よりも海上輸送の方がCO<sub>2</sub>排出量が少ないため

・トラックドライバーの時間外労働の上限規制に伴うドライバー不足への対応

(働き方改革関連法2024年4月) 31

# 課題③ 土地利用計画の見直し

- 金石大野埋立用地
- 御供田ふ頭

… 令和8年度に完成する予定  
… 岸壁水深が浅く、ヤードが狭い



新たなニーズを踏まえた土地の  
使い方について検討が必要



# 課題④ 港の賑わいと魅力の向上

- クルーズターミナル周辺の更なる賑わい創出（旧金沢港湾事務所周辺の土地の利活用）
- クルーズターミナルを核とした周辺地域や交流施設（いきいき魚市、大野からくり記念館等）との連携強化



クルーズターミナル周辺の  
更なる賑わい創出

# 課題③ 土地利用計画の見直し 課題④ 港の賑わいと魅力の向上

## (金沢港での分区の指定)

○ 港のきめ細かい土地利用や賑わい創出を実現するための方法である**分区の活用が必要**



第1章 将来ビジョン策定の目的

第2章 金沢港の現状

第3章 金沢港の課題

**第4章 今後の予定**

# 金沢港将来ビジョン策定の進め方

年度内の将来ビジョン策定を目指すため、委員会を3回程度開催予定

## ○スケジュール（案）

### 第1回委員会

(R5.4.28)

現状と課題の把握

企業・関係団体等へのニーズ調査

### 第2回委員会

(R5.夏～秋頃予定)

目指すべき方向性、ゾーニング

パブリックコメントの募集

### 第3回委員会

(R6.春頃予定)

金沢港将来ビジョンのとりまとめ

令和6年度は、引き続き、金沢港港湾計画の改訂に取り組んでいく。